



第二十九号

「正派邦楽会創始百周年記念演奏会（下）」

メルマガnoichi29号。『正派創始百周年記念演奏会（下）』今号は先月に続きます。
文化会館の客席を埋めた満員の聴衆、そのお目当ては同演奏会第二部に集約していたのかもしれませんが。
そして、その時拍手喝采の中心にいたのは、時代を象徴するお二人の御老輩でした。
正派百年節目の一大演奏会、ここに完結！



者の平井丈一朗先生がタクトを振り下ろすと、輝かしい平井先生の音楽が会場の空気を一変させました。

二曲目は日本三曲協会の先生方による「松竹梅」。業界最高峰の演奏は熱気に溢れたもので、山本邦山先生が後日談でこの時のご演奏に触れ「物凄い音」と仰っていらしたのは印象的でした。張り詰めた緊張感の中、固唾を飲んで聴き入っていたのは満員の聴衆だけでなく裏方も同じでした。作業中のスタッフもこの時ばかりは手を止めて、物音一つさせず察して控える辺りにプロフェッショナルのこだわりを垣間見た気がしました。

三曲目は中島雅楽之都作曲「四方の海」。こちらも他派の第一線で御活躍の先生方にご賛助を頂き、正派会員の演奏および混声二部合唱による荘嚴な調べを奏しました。この曲は正派ではしばしば演奏される初代家元の代表曲ですが、今回のように百名超の大人数で演奏する機会は滅多にありません。大規模になってみて初めてうかがい知る人間・中島雅楽之都の壮大な世界観。確かに感ずることが出来ました。

第二部四曲目は、お家元一族による唯是震一作曲「寿万歳」。卒寿をお迎えになる唯是震一、米寿の御家元中島靖子、副家元中島一子、次女唯是雅枝、最後に奥田雅楽之一。尺八には都山流尺八楽会御宗家中尾都山先生、

人間国宝山本邦山先生に加わって頂きました。この曲は昭和三十二年、震一、靖子の婚礼を祝し作曲者自身が捧げた曲。客席の大喝采は必ずしも正派百年の歴史に対するものだけでなく、お二方の長年に亘る苦勞と功績に送られ

た称賛の拍手なのであります。ひょっとしたら、将来を担う雅楽之一に対する激励の拍手も含まれていたのかもしれませんが。

ファミリー曲が終わり、司会進行の葛西アナウンサーが会を結びへ導きます。

「皆様は本日素晴らしい場に居合わせられました。百周年の締めくくりの曲は、中島雅楽之都さんと正派邦楽会にとつての大切な代表曲《和歌の浦》。新日本音楽運動の旗頭と新楽劇運動の旗頭が手を結んで、『うたことばに頼らない、演奏を主体とした、世界に通用する音楽』とした作品で、繰り返し名演奏として続けてこられました。新しい時代の新しい日本の芸能音楽―箏が世界に通用する―とい



↓次ページにつづく



う考えを体現したのが、この《和歌の浦》、正派の底力、今日の締めくくりです」

終曲は中島雅楽之都作曲の大作「和歌の浦」。正派の大会では必ず取り上げられてきた名曲であり、オオトリを飾るに相応しい大曲です。指揮に山本邦山先生、唄に萩岡松韻先生、杵屋巳津也先生、杵屋巳之助先生、打楽器に堅田喜俊先生御社中をお迎えし、家元を中心とした舞台上総勢百

名超の想いが音に集約し、客席の隅々に百年の響きを轟かせ、正派邦楽会一世一代の演奏会はその幕を下ろしました。

多くの方々のご協力によって実現することができた正派創始百周年記念演奏会。お力添えを頂きました全ての皆様様に、今一度心からの御礼を申し上げます。正派邦楽会はまた新たな一步を踏み出し、次世代へバトンを繋げて参ります。今後共ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

～参加者の声～

私共裏方の人間は、その華やかな舞台の土台を作る作業で、大変地味な仕事ではありますが、やり終えた達成感に満ちております。まず、水野好子先生の、大舞台を三つに区切り、オーケストラピットと合わせて四つの舞台を小気味良く有効に機能させるというアイデアが成功の鍵でありました。私共は各々の舞台の楽器の流れ・出演者の流れをいかにスムーズに進行させることができるか、大きな舞台にいかに綺麗に配置できるか、舞台袖のモニターで一曲毎確認をとり、小さな反省を繰り返しました。お家元・唯是先生ファミリー御出演の際、皆様を舞台へ御案内出来たことは、幸せな瞬間でありました。この感動は、いつか私共の誇りになるでしょう。(楽器店)

楽器係は昨年十二月の練習第一回目より本格始動し、外部でのリハ・サルの都度、メンバーで会合を重ね『楽器の流れを計算し、荷造り運搬、スムーズに進行、そして速やかに片付けてゆく』、一回一回、本番に向けての経験として積み重ねて参りました。事前の入念な準備の大切さを実感し、皆で知力・体力を出し合って滞りなく本番が終了出



来たことを一同大変嬉しく思っております。係よりのお願いを快くお引き受け下さった方々、大切な楽器をお貸し下さった先生方、いつも心強い楽器店の皆様、そしてお力添え下さった皆様、本当にありがとうございました。(楽器係)

調弦係三十四名で務めさせていただきました。「開演までどこまで調弦できるのか?はたして調弦は間に合うか?」、この不安を抱えながらの演奏会当日は、他の係り同様、早朝から集合し、二チームに分かれて調弦を開始。途中、あわや間に合わないかも...という時にも、チームを歩き来し、助け合いの精神で無事に乗り切る事ができまし

↓次ページにつづく

た。延べ調弦数一八六四面、すべての曲に調弦が間に合ったことは、皆様のご協力あつての事と思っております。色々不手際やご迷惑もおかけしたとは思いますが、無事に終えられ時、「ホッ！」と安心したことを記憶しております。(調弦係)

初代家元雅楽之都先生のお力で晴天となった六月二日早朝より、全国から集まった二十二名の正派会員が東京文化会館受付に集合。打合せに始まりご招待リスト確認や配布するプログラム冊子準備と、そこへ二代家元中島靖子先生が温かな微笑みを浮かべながら激励にいらして下さいました。すっかり元氣倍增！定刻に笑顔で沢山のお客様をお



迎えし終曲《和歌の浦》までの間、出演者同士交代しながら記念演奏会の受付に立っつていられる喜びを感じて過ごしていました♪(受付係)

《若菜》の舞台を振り返り、僭越ながら感想を書かせて頂きます。私共正派道場は総勢四十二名、第一部十七曲目の出演でした。新年の初弾き会から、皆で《若菜》を勉強し、合奏練習を重ねて参りました。当日はオーケストラピットで演奏の為、各人の動き(出番の続く人は本舞台へどのように移動するか等)のシミュレーションを行い、互いに声を掛け合い安全な進行に努めました。お家元と一緒に記念の舞台に立たせて頂きましたことに、感謝申し上げます。(正派道場出演者)

日本人が和楽器から遠ざかってしまいました。古典は現代人には理解されず、洋楽器に比べて音域が狭く、楽器も高価、運搬や準備も大変等々言い訳はいくらでもあります。どうせ退屈だろう、と自分が眉間に皺を寄せて楽しんでいない演奏には、友人を呼ぶのも気が引ける、と思つた経験は私だけではないはずです。しかし、知識などなくて「良いものは心を打つ」という事を百周年記念演奏会でみんなが実感できたと思います。各々が責任と使命を果たした演奏が聴衆を魅了する。確かに感じました。手応えと達成感！演奏者と聴衆が「音を楽しむ」この原点を忘れないよう、これからも正派の誇りを胸に、日々精進していきたいです。(北海道支部出演者)

難病による失明の可能性との診断がきっかけで、お琴を習い始めて十余年。医師の宣告とおり失明状態となった今、かくも盛大な演奏会に参加できたことは、障がい者にご配慮とお世話頂いた先生方や諸先輩の皆様のおかげだと本当に感謝しております。初めて参加する私には、いつも

と違う環境に練習の時から緊張し、よい刺激となりました。演奏会場では勝手がわからず、何も見えない私には全てにおいて不安でしたが、周囲の皆様を支えていただき、とても助かりました。今回の演奏会の経験を励みに、日々精進し、頑張りたいと思っております。(東北支部出演者)

昭和四〇年四月先代家元雅楽之都先生の「古希祝賀演奏会」が東京文化会館で開催され、地方から出てきたばかりの私は目を見張るばかりでしたが、それ以降、節目の演奏会に出演させていただく機会に恵まれてまいりました。今回は宮本雅都貴先生ご指導のもと《頌歌》に参加させていただき、大人数の舞台演奏でしたが乱れることも無く楽しく演奏させていただきました。昔々靖子先生より「女性は結婚・出産・育児で大変ですが箏との糸(縁)を切らないで、細くても良いからずっと繋げていってください」とのお言葉を頂戴し、七十歳近くなった今日まで続けてこられました。(関東支部出演者)

甲信越支部が牡丹を演奏することに決まってから、早速暗譜に取り掛かりました。が唄は覚えられないもの、途中の転調にはかなり苦労をしました。宮本雅都貴先生のレッスンには時々間違つた音が出てしまい、最後には宮本先生より「転調間に合わない人は、そこは弾かないように」との厳しいお言葉！本番はその言葉を胸に舞台へ上がり、大勢のお客様に緊張しながら、無事最後まで間違える事無く演奏出来たかと思えます。鉛と鞭による宮本先生のご指導に脱帽！(甲信越支部出演者)

正派百周年が私の還暦と重なり、人生の節目にと出演させて頂きました。思い起こせば、准師範試験を受け初めて初代お家元にお会いし、お人柄に感動したのは伊勢神宮で

↓次ページにつづく

の出来事、私が高校生の時でした。本年が式年遷宮の年であることでも何か不思議な御縁を感じております。演奏会当日は受付を担当させていただきました。お客様が感動してお帰りになるご様子を目の当たりにし、初代が守り下さったと確信致しました。(北陸支部出演者)

この演奏会で私は「誘導係」をさせていただきました。支部の方々を楽屋から出演者控室へ移動の案内、点呼などの係です。集合時間にはかなりの余裕を持って全員が集合しており、出演前控室にもスムーズに移動ができました。自分の役割と支部の演奏のことで朝から頭がいっぱいでしたが、気がつくとき会場のお知らせで、東京の大先輩の先生方、支部の役員の先生方が、本当に一生懸命走り回ってそれぞれのお仕事をしていたりました。演奏だけでなく、舞台裏での先生方の姿勢に、正派の一員としての意識の高さを感じ、学ぶことの沢山あった一日でした。(東海支部出演者)

東京文化会館で行われた正派創始百周年記念演奏会から四ヶ月、六月二日は長いようであつという間の一日でした。当日少し早くに会場に入り、係りのお仕事の手順等説明から一日が始まりました。自分に務まるか不安でしたが、同じ係りの方々と協力し無事終える事が出来ました。係りの仕事の合間に自分の演奏曲、私の演奏する曲は人数が多かったのですが、すごく綺麗に楽器が並んでいるのをこの時初めて舞台を見て驚きました。演奏する事、演奏が出来るよう舞台をセッティングして下さる方、全て人の力で成り立っているんだと改めて感じました。そして今回初めて係りのお仕事で知り合えた方々と、また十年後二十年後にお会いすることが私の楽しみになりました。(関西支部出演者)

「正派創始百周年記念演奏会」誇るべきその大演奏会にも、中国支部八十六名の内の一人として《秋の言の葉》に出演させて頂きました。舞台袖に着きますと、二曲前の《春鶯囀》の素晴らしい演奏が始まり、おのずと気持ち引き締められました。続いて舞台へ。楽器屋さんの見事なセッティングのお陰様で落ち着いて着席することが出来ました。本番中は、百周年の大舞台である事に感動しながら、自身の正派での半世紀余りにも胸を熱くしながら、そして又、この舞台に向けて熱心な御指導をして下さいました先生方のお言葉を大切に、心を込めて演奏させて頂きました。お家元、唯是震一先生、諸先生に深謝し、「正派創始百周年、万歳！万歳！！万歳!!!」(中国支部出演者)



正派創始百周年も初代中島雅楽之都先生の天の守りで大成功に終演できました。素晴らしい感動と誇れる心を持ち帰り、時代の変化を受け、様々な困難に直面しながらも「和の精神」で乗り越え、また次の一〇〇年に向けてスタートしました。富士山の世界遺産登録、東京オリンピックと日本に光がさしはじめました。日本人が本来持っている独自の文化を大切に後世に伝える役割が私達の肩にかかっています。「音楽を以って国恩に報ず」の正派 motto を胸に明日の光に向かって頑張りたいと思います。(四国支部出演者)

百年という節目の時代にめぐり合い記念演奏会の舞台で演奏できましたこと、たいへん嬉しく感謝しております。心に大きく残りましたことは《信楽狸》の中の「徳利」の演奏舞台でした。唯是先生の唄声に箏、三弦、尺八の音が寄りそっている様でそこには暖かく、優しい空気に包まれた空間がある様でした。それは私の心の宝物になりました。これからも色々な事を学び、そして伝えていけるように精進したいと思っております。(九州支部出演者)

百周年記念演奏会にアメリカ支部会員が参加出来ましたことに、心から感謝申し上げます。アメリカ支部会員の参加曲にはお家元、唯是先生ご家族のご出席を戴き、関東支部の先生方のお力添えも戴きました。お陰様で当日の大舞台での演奏を無事に終えることが出来ました。これもお家元、唯是先生方の長年のアメリカ支部へのご指導のお陰です。特にアメリカ支部主催の演奏会には遠方よりお出で戴き、大舞台での演奏に少しずつ慣れさせていただき、この度各自が自信を持って参加することが出来ました。これからも音楽の仲間と共に次の世代に向かって精進を重ねて参りたいと思います。(アメリカ支部出演者)

〜めざせ！東洋の魔女〜

一九六四年に開催された東京オリンピックで、小学生の私にとって、スポーツのすばらしさを実感できたことがいくつもあります。

男子体操では総合優勝、遠藤幸雄氏の個人優勝、体操ニッポンの現在の原点です。近年のロンドンオリンピックで獲得した内村航平氏の実績を、次の東京オリンピックでも、と思うのはこの時の印象と重なるからだと思います。

重量挙げの金メダリスト三宅義信氏のバーベルが上がり、「ランプが三つ！」とテレビのアナウンサーの大きな声も今だ記憶に残っています。

また男子陸上競技、マラソンでエチオピアのアベベが一位、そして円谷幸吉氏が三位銅メダルに輝き、私の小学校からほど近い国立競技場に初めて日の丸が揚がり、本当によかったです！と子ども心に覚えています。

当時は重量挙げもマラソンも女子の競技ではありませんでした。女子バレーボールも東京五輪から正式種目に入っただけです。鬼の大松といわれた大松博文監督率いる「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーボールチームが見事、金メダルを獲得しました。ソ連との優勝決定戦はスポーツ中継としては歴代最高となっている視聴率だったそうです。

家のテレビを見ながら、父が女子バレーボールの選手の方々が活躍されている様子を見て、本当の美しい人とはこういう姿だと私に言いました。一所懸命にバレーボールに向かう選手の方々を見て、表面的に飾らない、これが美しいということだと学びました。

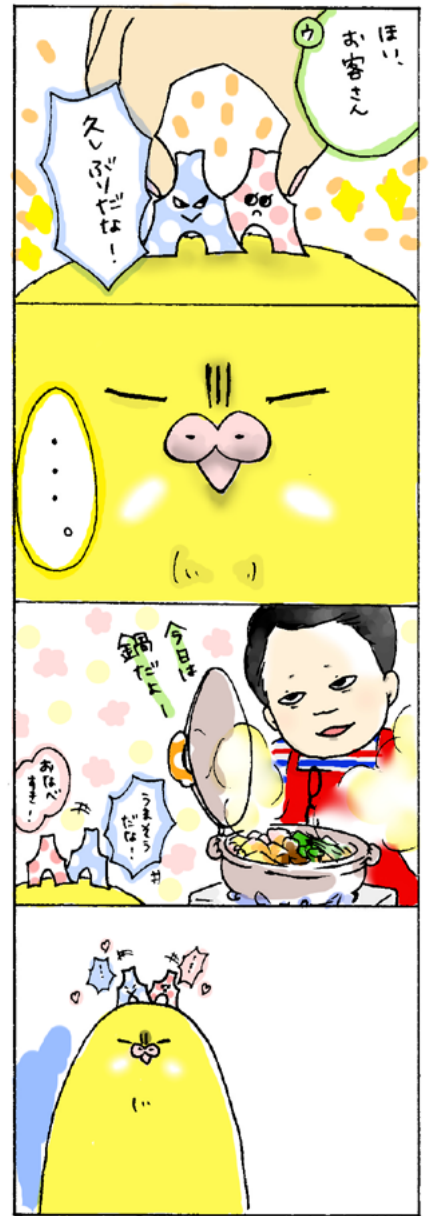


Illustration: morimoe

私もバレーボールの選手になる！と思い、後のテレビの『サインはV』、漫画の『アタックNo.1』の影響とともに、私は中学時代、二年間バレーボール部に所属しました。バレーボール部では補欠の補欠というポジションで、選手にはなれませんでした。レシーブ、トス、アタックとチームワークで行うバレーボールのリズム感

は、今、私の専門としている邦楽の囃子の太鼓、大鼓、小鼓で打つテン！チョン！ポン！の拍子につながり、チームワークの重要性とともにバレーボールが私に教えてくれたことです。また、女子バレーボールチームが、東洋の魔女と呼ばれたことで、西欧の方々に「東洋には何か未知の世界がある」と意識されたことは後々大きな影響を与えたと思います。

当時の女子バレーボールチームが私をはじめ多くの日本人に勇気を与えてくださったことに感謝を込めて、私ができることは、東洋・日本の音楽、和楽器を広めることだと思えました。

日本の音楽、文化は「命が命です。女子バレーボールチームのように「東洋の魔女」を目指して演奏、活動してまいります。応援よろしく願いいたします。

!! Present !!

メルマガ《noichi》から、日頃の感謝の気持ちを込めて、読者のみなさんにプレゼント。正派創始百周年記念演奏会の参加者に配られた「缶バッジ」を、抽選で三名様に、プレゼントさせていただきます。ご応募方法は、メルマガ《noichi》編集部宛 <mailmagazine@utanoichi.jp> に、ご住所、お名前をご明記の上、11月4日までにメールをご送信下さいませ。尚、当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

◎あともがき◎

百周年の演奏会で個人的に印象が強く残ったのは、五十年の演奏会のために作曲されたという作品だった。まるでヨーロッパの音楽のようで、「第三の男」という映画のサウンドトラックで有名なアントン・カラスのようでもあった。

五十年周期で考えてみると、二十世紀の中頃は自由だった。アメリカを中心にモダンな新しい価値観にあふれていた。これからの五十年はどこに向かって行くだろう。日本は中世に向かっていくような気もするが、せめてアートだけは自由に向かつて行ってほしいものだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1358.jp) みやはらたかお

